

第 2 回 定 例 会

# 教 育 行 政 報 告

令 和 4 年 6 月

北 広 島 市 教 育 委 員 会



令和4年第2回定例会の開会にあたり、教育行政報告を申し上げます。

## 1 令和4年度学校教育の状況について

まず始めに、令和4年度学校教育の状況についてであります。4月6日に新小学1年生407名、新中学1年生515名を迎え、小学生2,725名、中学生1,538名でスタートしたところであります。

今年度の学校教育推進の重点につきましては、「小中一貫教育の涵養」としているところであります。「涵養」とは、水が土にじわじわしみこむように、自然にじっくり養い育てるという意となりますが、5年目を迎えた小中一貫教育を本市の特色ある教育として、さらに可能性を広げるとともに、3月末に小学1年生から中学3年生までの整備が完了した1人1台のパソコン端末を活用しながら、子どもたち一人ひとりに応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と関わる「協働的な学び」を一体的に充実させるため、指導方法や指導体制の工夫を通じた授業改善に向け、全力で取り組んでまいりたいと考えているところであります。

## 2 適正規模・適正配置検討事業について

次に、適正規模・適正配置検討事業についてありますが、本事業のキックオフとなる教育講演会を、5月21日に芸術文化ホールで開催し、約100名の参加があったところであります。

当日は、ほっかいどう学推進フォーラム理事長の<sup>しんぼもとやす</sup>新保元康先生に基調講演をいただくとともに、帯広市教育委員会からより良い学校づくりの実践事例について発表いただいたところであります。

また、教育講演会に先立ち、4月15日には、本事業に関する広報紙を保護者や地域に配布し、市立学校の現状についてお知らせしたところであります。

今後、6月9日には、北広島市立学校適正配置等審議会の第1回会議を予定しているところであり、引き続き、保護者や地域の方々とともに、より良い学校づくりに取り組んでまいりたいと考えているところであります。

### 3 教育行政における新型コロナウイルス感染症への対応について

次に、教育行政における新型コロナウイルス感染症への対応についてありますが、感染状況がレベル2として、本市におきましても感染リスクが高まる場面や行動等を回避しながら、教育行政を推進しているところでもあります。

学校教育におきましては、北海道教育委員会からの通知に基づき、オミクロン株の特徴を踏まえ、学級閉鎖については必要最小限とし、6月3日時点におきまして小学校10学級、中学校3学級の閉鎖となっているところであり、タブレット端末を活用したりリモート学習等に取り組んでいるところでもあります。

依然として予断を許さない状況ではあるものの、各学校の実情に応じた感染症対策を講じながら、通常の学習に取り組むとともに、修学旅行や運動会・体育祭を実施するなど、感染拡大防止と学びの保障の両立に取り組んでいるところでもあります。

また、社会教育におきましても、感染症対策の徹底を図り、公民館事業「シャベルきたひろ」や芸術文化ホールにおいて春の音楽会とゴールデンウィークの映画鑑賞事業を開催したところであり、今後も、地域の感染状況を踏まえ適切な対策を講じながら、市民の学びの機会の保障に努めてまいりたいと考えているところでもあります。

#### 4 スポーツアカデミー事業「ダンチャレ！！」について

次に、スポーツアカデミー事業「ダンチャレ！！」についてであります。北海道日本ハムファイターズとの連携事業として、札幌ドームにおけるファイターズ戦の試合中盤、市内の小学生が星槎道都大学ダンス部とファイターズガールとともに、ダンスで応援する事業を今年度も実施するところであります。

市内の小学生147名の参加があり、現在、6月19日の千葉ロッテマリーンズ戦におけるダンス発表に向け、星槎道都大学ダンス部にご協力をいただき、練習に励んでいるところであります。

#### 5 旧島松駅逦所見本田の田植えについて

次に、旧島松駅逦所見本田の田植えについてであります。5月17日に、水稻赤毛種保存会の指導のもと、西部小学校の4年生31名が水稻赤毛の田植えを行ったところであります。

この田植えを通じて、先人の労苦を感じるとともに、寒地稲作発祥など郷土の歴史に触れる機会になったものと考えているところであります。

なお、令和5年は、中山久蔵翁がこの島松沢で寒地稲作に成功してから150年の節目の年を迎えるところであります。次年度の150年を記念した事業に向け、今年度は、民間有志の方々とも連携を図りながら、気運醸成に取り組んでまいりたいと考えているところであります。

以上申し上げ、教育行政報告といたします。